

令和4年度「第7回 貝原俊民美しい兵庫づくり賞」の受賞者と功績等

氏名／団体名	功 績 等
<p>公益社団法人ひょうご被害者支援センター</p>	<p>2002年(平成14年)犯罪被害者や遺族、その家族への支援と、社会全体が被害者を総合的にサポートできる環境づくりに寄与することを目的として特定非営利活動法人ひょうご被害者支援センターを設立。</p> <p>2014年(平成26年)公益社団法人同センターに事業を承継。現在正会員125名、賛助会員204名(団体)、電話相談員30名。2009年(平成21年)兵庫県公安委員会から支援を適正・確実にできる民間団体として県内唯一の「犯罪被害者等早期援助団体」に指定された。</p> <p>主な事業として電話相談や面接相談、付き添い支援などの支援活動、命の大切さを学ぶ授業、シンポジウムの開催、ピラ配り、ニュースレターの発行などの広報・啓発活動、関係機関での研修などを行っている。法律や心理学の専門家、警察や司法・行政等関係機関とも連携しながら犯罪被害者等が被害から少しでも立ち直り、地域で平穩に暮らせることを目指して継続的に活動している。</p> <p>2017年(平成29年)性暴力被害へのワンストップ支援センターとして、兵庫県が開設した「ひょうご性被害ケアセンターよりそい」の運営委託を受託し、電話相談等の支援活動を行っている。</p>
<p>認定特定非営利活動法人フードバンク関西</p>	<p>2003年(平成15年)任意団体フードバンク関西として活動開始、2004年(平成16年)特定非営利活動法人として認定され、現在は約120名のボランティアにより運営。「食」をつないで「いのち」をつなぐ、“だれもが食べ物を得られる社会”を目指して活動をしている。</p> <p>「フードバンク」とは、まだ安全に食べられるのに様々な理由で使われなくなった食品を企業や家庭から引き取り、必要としている福祉施設・団体や個人に届けることで、食品本来の価値を取り戻し、有効利用する循環を生み出す活動であり、食品関連企業が抱える余剰食品の問題を解決するSDGsの観点、また社会のセーフティネットの一つとして福祉の観点から貢献することである。</p> <p>設立当初から、中間支援組織として団体を通じて個人への支援を行っているが、コロナ禍を受け、2020年(令和2年)個人の希望者に数日分の食料をつめたパックを直接個人へ届ける「緊急食支援食品パックプロジェクト」を実施。ひとり親世帯・子どもを対象とした「食品パック」プロジェクトも実施している。</p> <p>2021年度は282トンの食品を回収し、162の受け取り団体へ毎月1～3回、行政、社協を通じてまたは直接個人から(令和3年)の依頼1604件へ届け、のべ1246世帯へ食品パックを発送した。</p>

氏名／団体名	功 績 等
見野古墳群保存会	<p>見野古墳群は姫路市四郷町、麻生山から派生する尾根の東麓に築かれ、古墳時代後期から終末期にかけて作られた群集墳である。現在までに15基が確認され、そのうち4基が兵庫県指定史跡に、6基が姫路市指定史跡に指定されている。</p> <p>見野古墳群保存会は、地域の歴史資産として古墳群を保存・継承し、文化・教育活動に役立てるため、2005年（平成17年）見野自治会が中心となり、校区代表、行政機関、学識経験者など21名で結成。現在の会員は302名である。</p> <p>「見野古墳群サポーター制度」、「企業ボランティア制度」の導入など幅広く支援者を募集し、古墳群の保存活動、環境整備を実施。「姫路古墳ロード案内マップ」など古墳を紹介する小冊子を発行、見学会や講演会を開催し、地域住民にPRし、古墳を活かしたまちづくりを進めている。</p> <p>古墳を活かしたまちづくりの一環として、ヤマザクラやヤマアジサイを植栽し、「山桜まつり」、「山アジサイ祭り」、「古墳ロード歩こう会（史跡巡り）」等、様々なイベントを実施し、地域の活性化を推進。2017年（平成29年）「見野の郷100年プロジェクト」を策定し、「魅力と活力のあるまちづくり」・「地域文化の伝承」・「教育・文化活動の普及」などの事業を進めている。</p>